

インターバンクの声（2014 年 10 月 16 日）

8 日に発表されたアルコアを皮切りに、米国の決算発表シーズンがスタートした。アルコアをはじめ、ここまでは、インテル、ペプシコ、ジョンソン & ジョンソン、シティなどの結果が、市場予想を上回る堅調な内容となっている。これらの決算内容から一昨日までの米国株の下げも早期に終わるのものと楽観視していた。しかし、昨日発表された米国の小売売上高(9 月)、NY 連銀製造業景況指数(10 月)、生産者物価指数(9 月)が軒並み市場予想を下回ると、米景気回復のペースが減速しているとの懸念が改めて広がり、米ダウは一時 460 ドルの下落となった。米 10 年債利回りも 2%を割り込み、ドル円は 105 円 20 銭まで円高ドル安が進んだ。

その後は、イエレン FRB 議長が、先週ワシントンで開かれた非公開の会合で、世界経済の成長が減速する中でも、米経済の成長が持続することに自信を表明したことが伝わり、米ダウが反発する場面もあったが、終値は前日比 150 ドルを超える下げで終了した。今日、明日は米鉱工業生産や引き続き発表される企業決算、そしてイエレン議長を含む数多くの FOMC メンバーの講演に注目だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。